

森を感じ、木を感じるものづくりプロジェクト ～災害に関する木材の実態～

1 はじめに

昨年元日、能登半島地震が起きた。地震・豪雨災害などが多く発生し今後も災害がいつ来てもおかしくない状況にある。

私たちは活動を通して東日本大震災について学び、原発事故の恐ろしさを知った。長い避難所生活で重要になるのは、プライバシーの確保や精神的な安らぎであると考えた。そこで、私たちは木材の利活用の現場を見学し様々な知識を得たうえで、課題解決のものづくりに取り組むこととした。

また、本プロジェクトを通して災害に関する木材の利用価値を模索しつつ建築技術者としても知識や理解を深めていきたい。

3 活動の成果

(1) 森を感じる

- ・フォレストパークあだたら
- ・新地町広葉樹林再生事業

新地町の森林伐採現場を見学した。植林の工程から放射能測定などの検査があり伐採するまでに様々な規制があることが分かった。

フォレストパークあだたらでは、木の伐採も体験した。



(3) 木材の利活用

- ・住友林業筑波研究所

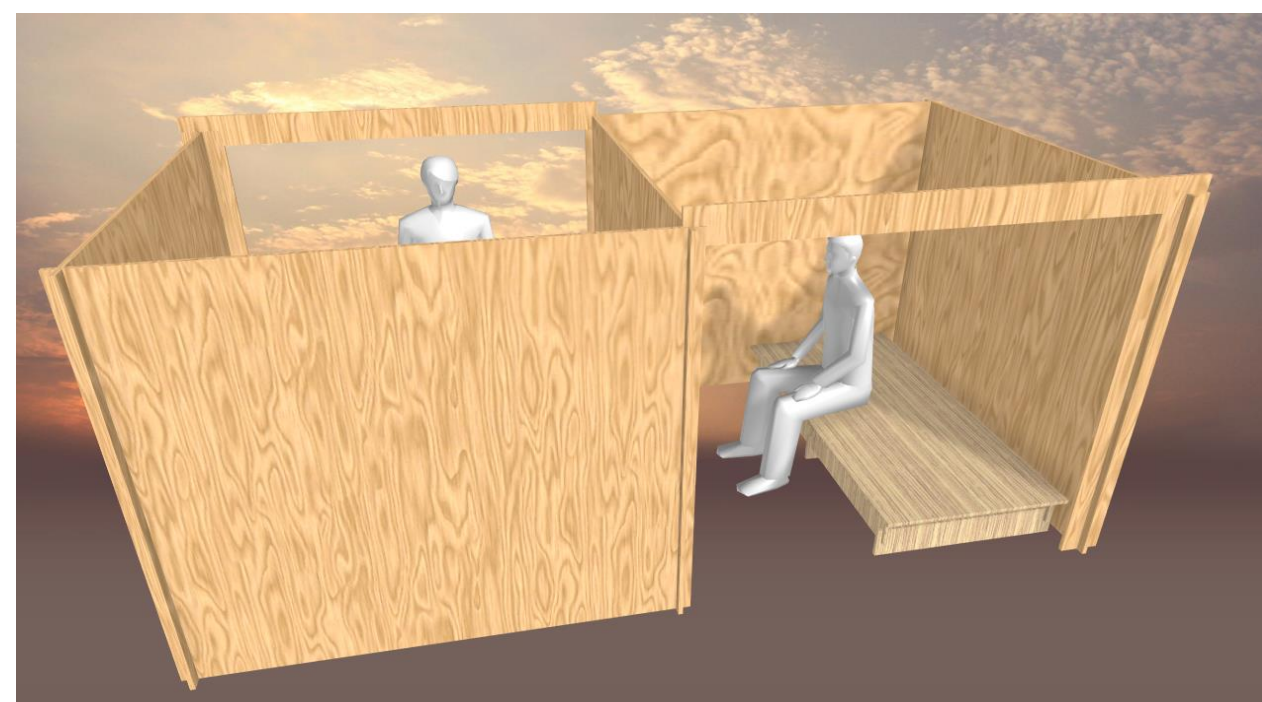
研究棟や工場の見学や集成材などの木の活用について学んだ。筑波研究所の研究棟の大梁は準耐火60分の合わせ梁を使っていた。木造建築物を対象とした全館避難安全検証法の大臣認定を取得した国内初の物件である。



4 成果物

災害用ロゴモジュール

災害時に避難所での使用を想定した間仕切り壁。組み方次第で自由に空間を構成でき、端部にログ加工を施しているため頑丈である。組み立てが簡単で平時は本棚などとして利用可能である。



5 おわりに

今回の活動で、森の大切さや木の活用について学ぶことができた。森の中に入り森林伐採を見学して、普段実習で使っている木材は多くの方が携わって私たちのところへ届いていると学んだ。また、集成材を製造している工場や集成材が使われている建物を見学して木材の活用について学んだ。請戸小学校や原子力災害伝承館を訪れて改めて災害の恐ろしさを知り今後大きな災害が起こった時のために避難経路など確認しておこうと思った。近年、日本では多くの災害が発生しており木材と災害を関連づけて何かできないかと思い災害用ロゴモジュールを製作することとした。これからも多くの方々に木材の魅力を知っていただくために、SNSなどを通じて情報発信していきたい。

小林利暉 鈴木海空斗 西間木健太 三浦宏太

2 プロジェクトの概要

【森を感じる】
災害に関する森林・林業の実態を知る

【木を感じる】
原木から材木になる工程について学ぶ

【木材の利活用】
現場見学を通して活用事例を知る

【情報発信】
SNSで活動状況を発信しものづくりに取り組む

(2) 木を感じる

- ・ウッドコア

福島のスギやカラマツなどの原木を製材・乾燥から安定した強度や品質を持つ構造用大断面集成材の製造・加工まで一貫生産している。大規模構造向けの大断面集成材を製造し、木材の活用方法を学ぶことが出来た。



(4) 情報発信

〈テクノアカデミー浜
Instagram TikTok Facebook〉

資料製作や企業見学の様子などを写真・動画を投稿している。木材の可能性や実習の様子など学んできたことを多くの方々に知っていただくために、情報発信している。

